

☎テレホン法話(0577)(34)2313

○11月21日(30日)：森三智丸氏「秋聲寺」

○12月1日(10日)：旭野康裕氏「永養寺」

○12月11日(20日)：伊達秀氏「報恩講」

◆宗教トラフル相談窓口(0577)1321076

11月1日・2日・3日 ひだご坊報恩講厳修



御同朋と共に勤めた報恩講

報恩講御礼
高山別院輪番 大町慶華
十一月一日から三日までの三日間、おかげさまで無事、報恩講を厳修できましたことは、ひとえに皆様方のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。報恩講の準備においては、教区内各組の皆様にご協力いただき、さらには遠近各地より大勢の方々の御参拝をいただき、盛況裏に勤めることができました。各寺院の住職様をはじめ坊主・僧侶・門徒会・婦人会の皆様のご協力なご協力をいただいたことに厚く御礼申し上げます。

このたび高山教区ならびに別院では、二〇一五年の春に、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を厳修することが決定したことを踏まえて、今年は報恩講実行委員会において御遠忌へ向け、の報恩講として検討していただきました。そこで全席を椅子席とし、大連夜では本山での御遠忌と同じ同朋唱和として厳修させていただきました。今年も、予定しておりました講師の石川正生氏が急病になられ、急遽講師を教区内の御住職にお願いしました。ポスター等と内容が違い、誠に申し訳ございませんでした。しかし、各御住職様から、大変すばらしい報恩講に寄せるお話を賜り、感動させていただきました。これからの報恩講には、教区内の方々より、報恩講に寄せる思いを少し述べていただくことも大事なことでないかと思つたことであります。最後になりましたが、ご参詣の皆様をはじめ多くの方々から御懇志をいただき、衷心より御礼申し上げますとともに、ご協力いただきました関係各位に対して、深甚の謝意を表しまして御礼の挨拶とさせていただきます。

ひだご坊

No.280
2012年11月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
※毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

ての報恩講として検討していただきました。そこで全席を椅子席とし、大連夜では本山での御遠忌と同じ同朋唱和として厳修させていただきました。今年も、予定しておりました講師の石川正生氏が急病になられ、急遽講師を教区内の御住職にお願いしました。ポスター等と内容が違い、誠に申し訳ございませんでした。しかし、各御住職様から、大変すばらしい報恩講に寄せるお話を賜り、感動させていただきました。これからの報恩講には、教区内の方々より、報恩講に寄せる思いを少し述べていただくことも大事なことでないかと思つたことであります。最後になりましたが、ご参詣の皆様をはじめ多くの方々から御懇志をいただき、衷心より御礼申し上げますとともに、ご協力いただきました関係各位に対して、深甚の謝意を表しまして御礼の挨拶とさせていただきます。

御伝抄拝読

ご坊報恩講の夕べ 東日本大震災を心に刻む集会 Part 4

「青空大地と心の風を奏せよ」

11月1日の夜、別院庫裡ホールにおいて報恩講の夕べが開催されました。

第一部は、福島児童一時保護支援活動報告。まずは下呂市萩原町の永養寺が主催した「福島キッズ 湯ったり、ゆら〜りin下呂&駿河(YYG)」の青木幸美さん(永養寺門徒)にお話しいただきました。この保養にはパワフルで元気一杯の7家族20名が参加しました。色々お話を聞く中で、厳しい生活を送っていると感じたそうです。また、日程の最後に国立駿河療養所を訪問し、カプトムシをもらい帰ってまいりました。最近、そのカプトムシが卵を生んだとの喜びの報告があったとか。新たないのちが芽生えようとしています。

続いて、高山別院を会場に開催された「福島から遊びにおいて、飛騨高山へ2012」の報告を救護班として参加した横木あやみさん(須田病院看護師)にお話しいただきました。この保養には28名の小・中・高校生が参加しました。子どもたちに大きなけがなどはありませんでしたが、中には「出されたものを残してしまうのはもったいない」といって、無理をして食べ過ぎた子がいたそうです。その「もったいない」という言葉にどんな気持ちが隠されているのかを考えさせられたそうです。

第二部では、チャリティーコンサートが行われました。まず、馬頭琴とホーミーでモンゴルの音楽を聞かせてくれた岡林立哉さん。馬頭琴のエキゾチックな響きと、ホーミーのなんとも表現できない声質に、みなさん静かに聞き入っていました。続いて、富安秀行さん(ギター)・あらいなおこさん(ハーモニカ)・照喜名俊典さん(チューバ他)・黒田かなえさん(バイオリン)からなる、「青空楽団でるてる家族」。楽団の父親役、富安さんいわく、「この楽団は鍋のような楽団だ」とのこと。使われている楽器は個性的なのに一緒にまとまろうまく調和している。とても大切なことだと感じさせてくれた時間でした。

大変盛り上がりつつ終幕した今回のご坊報恩講の夕べ。非常に寒い日でしたが、会場の皆さんは温まって笑顔で帰路につきました。



青木幸美さん



横木あやみさん



「岡林立哉と青空楽団でるてる家族」

仙教讃歌をうたう会

毎年十一月一日の初夜では「仙教讃歌をうたう会」の皆さんの合唱とともに音楽法要が勤められています。曲は、宗祖親鸞聖人七百回御遠忌の時に出来た坂東曲が入った法要曲です。

この合唱団は、一九八五(昭和六十)年一月、東京荒川少年少女合唱団が高山に求められた際の演奏会がきっかけで誕生しました。主な活動として、月三回、指導者と伴奏者を招き別院付近のお寺の本堂で練習しています。また、毎年六月の婦人一夜研修会や飛騨合唱祭、福祉施設訪問、本山の春の法要や全国各地で開催される仙教音楽法要などに参加しています。力一杯を出して仏様のうたを一緒にうたいませんか?現在メンバーを募集しています。希望者は本教寺(0577)13211748まで。



音楽法要の様子



「よ〜い、ドン!」

子ども報恩講

十一月四日、子どもと大人を合わせて百名以上が参加して「子ども報恩講」が勤まりました。開会式ではみんなで「正信偈」のお勤めをし、「子ども書道作品展」の表彰式が行われた後、影絵「いただきます」を上演しました。この物語は食事の前で、「いただきます」と言うことの大切さを考える内容で、講師の伊達俊幸氏(報恩寺)は「人も動物もあらゆるいのちの重さは同じなんだよ。私たちが食べているご飯はその同じ大切ないのちをいただいているのだから、感謝の気持ちを込めていただきますと言うんだよ」とお話されました。

午後からは〇×クイズ、綿菓子、三輪車競走、射的、輪投げや缶倒し、ボール投げなどをして思う存分楽しみました。来年もみなさんのご参加を心よりお待ちしております。

定例法座講話(午後1時から) ○11月21日(水)：前田雅敏氏「長林寺」 ○11月27日(火)：大町慶幸氏「龍蔵寺」 ○12月1日(土)：江島隆幸氏「光雲寺」 ○12月11日(火)：大町慶幸氏 ○12月13日(木)：竹田和貴氏「慈雲寺」

親鸞の往生を確信させるために語った第一の証文(「恵信尼消息」第三通前半)は、「一二〇一(建仁二)年、親鸞聖人が二十九歳の時の六角堂参籠から吉水の法然上人の門下に入るまでをまとめている。前年まで「比叡の山に堂僧つとめて」いた聖人は、年末に「山を出でて、六角堂に百日」の参籠を決意した。そこには比叡山との決別の意思は明確に表現されている。しかし、自らの行く末を解決すべく「後世を祈らせ給いける」と語るばかりであって、その具体的な内容は定かではない。それを解く鍵は、六角堂にあるようである。



「親鸞の往生を確信させるために語った第一の証文(「恵信尼消息」第三通前半)は、「一二〇一(建仁二)年、親鸞聖人が二十九歳の時の六角堂参籠から吉水の法然上人の門下に入るまでをまとめている。前年まで「比叡の山に堂僧つとめて」いた聖人は、年末に「山を出でて、六角堂に百日」の参籠を決意した。そこには比叡山との決別の意思は明確に表現されている。しかし、自らの行く末を解決すべく「後世を祈らせ給いける」と語るばかりであって、その具体的な内容は定かではない。それを解く鍵は、六角堂にあるようである。

「願望」から八句を抜き書きした「三骨一願文」の真筆が遺されていて、「願望」のどこに注目しているかが分かる。

「我身救世親世音
定慧契女大勢至
生育我身大悲母
西方教主弥陀尊
為度末世諸衆生
父母所生血肉身
遺留勝地此願窟
三骨一願三尊位」

「行者宿報設女犯
我成玉女身被犯
一生之間能莊嚴
臨終引導生極樂」

「女犯の偈」と通称されている七言四句の偈である。二つの偈文を見れば分かる通り、在家主義の仏道の為、「犯」と「被犯」という男女の関係を、「能莊嚴」という生命の事実として受け止め合い、共に救われて行く道を志向している。それは「貴賤・細素を簡はず、男女・老少を誦わす」という仏道を課題としていたことが分かる。

子ども作品展

十月二十五日から十一月四日まで、飛騨地域の小・中学生から出展された書道作品三十七点と絵画一点が別院本堂内に展示され、表彰式が十一月四日の子ども報恩講中に行われました。入選者は次のとおりです。

【教務所長賞】
白田彩穂さん



教務所長賞 白田彩穂さん

御坊報恩講

【輪番賞】
三枝菜月・上町星太・高田智耶・藤守周・黒木藍歌・打保紗舞・佐藤大嵩・林朱莉・鎌倉楓太・熊崎愛・田中みのり・岩田陣・直井良太郎・重山桜佳・坂下美優・上町美月・今瀬華音・池畑太陽・田中友麻・幅上結菜・岡田優衣・江間友音・田中麻裕・野尻陽子・二村勘太・田代ゆき子・東郁美・河田愛果・架場彩峰・桂川真梨子・山本繁・金沢実玖・林風花・桜井真菜・新田万福・小瀬大和・中井由佳・堀未来・谷本詩歩・大嶋篤生・中田愛菜・野口夕香・新田潤・洞川侑摩・三木花音
(敬称略)

大如悲来

【金賞】
田中咲有・宮崎天真・江間翔大・徳川真由紀・松田響・三瓶響・宮田美雨・橋本夏林・中田良

銀賞

浅尾かほ・三瀬香穂・田中愛純・伊藤涼七・滝和弥・森本憲諒・清水澤・水尻佳那・下田侑奈

銅賞

東祐月・後藤悠希・三橋美友・下方春果・丹後雅・浅野華月・東田日菜子・浅野日月・石垣航大

第31回 別院真宗公開講座

【第2回】

日時 12月21日(金)
午後7時~9時
講師 木越康氏

講題 「大谷大学准教授 無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

講題 「無明長夜の燈炬 ―正像末和讃のこころ―」

高山別院 報恩講奉仕御礼

報恩講にはたくさんの方にご協力いただきました。あらためて厚く御礼申し上げます。

大谷婦人会
高山教区坊守会
別院直参門徒
別院華方
別院華東講
八日町雅楽宮尚会
玄興寺雅楽会
仏教讃歌をうたう会
莊川組少年少女仏教讃歌合唱団
高山教区真宗同朋の会
高山一組真宗の会
高山一組同朋会代表者会
高山一組門徒会
高山一組門徒会
吉城組門徒会
益田組門徒会
玉翠会
二木社中
おあさじの会
飛騨御坊ボランティア委員会 (順不同)

